

## 二分脊椎の整形外科的治療

座長：奥 住 成 晴・柳 田 晴 久

二分脊椎はしばしば「包括医療」という言葉が使われ、脳外科、泌尿器科、整形外科のほか多数の診療科がかかわる必要がある疾患である。整形外科的にも足部から股関節や膝など下肢の問題のほか、脊柱変形の問題も併せて多岐にわたる知識を必要とする。

今回のセッションの 7 題のうち前半の 3 題は、こうした二分脊椎の多彩な病像を分析したものである。静岡県立こども病院では 24 例に対して計 57 回の入院治療を行っており、とくに community ambulator で手術回数が多かったという。兵庫県立こども病院は 200 例以上の例について Sharrard 分類別に障害部位の頻度を調査した。麻痺レベルが高い例では脊柱変形の頻度が高いのは当然だが、変形発生・進行の要因としては、麻痺性の要素、脊椎奇形自体、股関節の影響と多彩である。千葉県こども病院は 180 余例について、整形外科的問題点の分類と、それに対する手術治療について述べた。問題点として、脊椎の頻度は高いが、手術の頻度としては低いようである。

次の 3 題は足部変形の手術について述べている。福岡県立粕屋新光園は、内反尖足や踵足など 7 例の手術例の概要を述べ、神奈川県立こども医療センターと宮城県拓桃医療療育センターは、多数の症例に対する手術の結果について述べた。その基本は、変形矯正のための解離、筋力不均衡に対する筋腱移行、足根骨の固定を病態に応じて組み合わせた多様な術式となる。これらに対して安定した成績を上げるためには豊富な経験が要求される。

最後の演題は札幌肢体不自由児総合療育センターからの股関節脱臼に対する整復治療である。結果としては、一般に言われているように同側、反対側の再発傾向があるようであるが、非対称な姿勢の改善が可能で、脊柱変形との相互関係にとっても有効であると述べた。